

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

鬼門、中小企業金融 (新設 VS 既存銀行)

死屍累々……何故かそんな言葉が浮かんできました。中小企業金融に新たなステージを開こうとしてスタートした2つの銀行(木村銀行こと日本振興銀行、石原銀行こと新銀行東京)の失敗、挫折、そして犯罪。一寸イメージは違うかもしれませんが、理想を掲げて立ち上げ、そして全力で走った結果が<あの姿>であればあまりに寂しい。スコアリング過信で犯罪者まで出し総括なしに戦線を縮小したメガバンクのビジネスローンもそうでしたが、金融にとって中小企業金融は鬼門のように見えます。

何が問題だったのでしょうか。何を間違えたのでしょうか。そもそも始めから無理だったのでしょうか。

ここ数年の出来事で判ったことが幾つかあります。第一には、定量情報(財務情報)だけで中小企業を判断するのは不可能であるということです。そこには作為が入り込み、極端には騙しが発生します。そんな定量情報にいくら精緻なモデルでスコアリングしてみても砂上の楼閣に過ぎないことがはっきりしたように思います。

第二には、ペーパーだけで判断するのも困難であるという事実も明確になったように思います。事業経営は人が行うものです。人と人とが絡み合っただけでモノが動きカネが流れます。そんなビジネスの現場を見ないでペーパーだけ見ても本当のことは勿論、本当に近いことも見えないのではないのでしょうか。

そして第三に、日本の金融のひずみ是正はそんなに簡単ではないことも明らかになったように思います。かつて何度かこのレポートで触れましたが、銀行の中小企業向け貸出金利と商工ローンの貸出金利の間に大きな乖離があり空白があるという事実は、一方で日本の金融の歪みを示すものであり、一方ではその空白部分に中小企業向けの有望な貸出市場があることを示していると思われました。その市場を開拓し拡大すれば中小企業専門金融事業は成り立つ、そう単純に考えていた(多分、木村氏も石原氏もそう考えていた?)のですが、ことはそう簡単ではありませんでした。市場そのものが年々縮小する中、既存銀行も必死で中小企業向け貸出確保に動き、体力もなくノウハウにも乏しい新設銀行はあっけなく跳ね飛ばされて

しまったのです。既存銀行は今も競争に打ち勝つために貸出金利を下げ続け、ノンバンクとの乖離や空白など存在しないように振舞っています。

しかし、銀行のこうした行動は果たして持続可能でしょうか。私にはそうは思えません。銀行の収入(売上)の過半は「貸出額×貸出金利」で計算できます。有価証券利息収入や手数料収入もあるとはいえ、今も貸出利息収入が銀行の屋台骨を支えていることは間違いありません。前回のレポート(BS革命進行途上)で触れたように、その屋台骨が、量(貸出額)の減少と質(金利)の低下で揺らいできているのです。そう断言すると叱られるかもしれませんが、それに近いことが起こっている可能性が大です。多分、このまま行くと、数年もしない内に更なる再編が起こると考えた方が自然です。

勿論、銀行の貸出先は中小企業だけではなくありません。大企業もありますし、個人もあります。又、公的部門もあります。実際、下表のように企業部門の落ち込みをカバーしてきたのが、個人部門(家計)であり公的部門でした。

	地公体向	政府向け	個人向
2000/3末	9.4	0.7	91.7
2005/3末	13.0	12.2	104.1
2010/3末	20.7	11.2	113.3

(出所：日銀、単位：兆円)

しかし、どうでしょう。これから個人向け融資がどんどん増えて行くのでしょうか。また既に過大債務が問題となっている公的部門が今後更に債務を拡大していくと思うのでしょうか。両部門ともせいぜい横這いがいいところでしょう。こうした環境下では、金融機関が貸出を伸ばしていくこと自体が困難になっているのです。それは金融機関の保有する国債残高の推移にはっきり出ています。

今月27日の日経新聞によると、5月末で国内銀行は前年比23%増の138兆円の国債を保有し、昨年5月から毎月過去最高を更新し続けています。取り敢えず国債に逃げているようで、非常に危険な臭いを感じます。勿論、貸出が減る中で有価証券運用はもう一つの有力な手段ですが、ハイリスクに挑む覚悟はあるのでしょうか。国債への逃避は覚悟なき運用姿勢を示しています。

今や銀行にとって<木村・石原の失敗>は他人事ではありません。彼らを嗤ってられるのは今の内だけかもしれないのですから。

発信日：2010.7.31 第616号

《複製・転載等のご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp